

2010年2月28日フォスター・プラン講演会報告

(スポンサーシップの新らしい試み “スクール・スポンサーシップ”)

報告者：坂本 春江



スポンサーシップとはスポンサー（支援者）が子供や住民たちが進める地域開発を資金面から継続的に支え、チャイルドやその家族との手紙や写真などの交流を通じて活動地域の人々との相互理解を深める支援方法である。

2008年にプラン・ジャパンは新しい試みとしてチャイルド個人でなく学校のクラスを対象とし、クラスの人数に見合うスポンサーがつく方法をとった。

場所はベトナム中部山岳地域ガオ村、標高1200メートルの地域である。最近は経済的にも元気なベトナムだが、この地域の現状は国の発展から取り残されがちであった。ガオ村は少数民族でベトナム語は話せず現地語を使い、険しい地形から家もばらつき、水は川や雨水を使い、トイレもなく道路は雨季には寸断され寒さも厳しい所である。

そこで、ばらばらの集落や村をつなげ、子供同士、大人同士のつながりを作りやすい所、又教育や集団行動の機会のある学校を拠点にして子供を中心に地域を一つにするプロジェクトを始めた。

今までは子供1人にスポンサー1人と言う対象であるが、手紙や写真などの交流の習慣のない地域ではチャイルド側に逡巡の傾向もあったようだ。

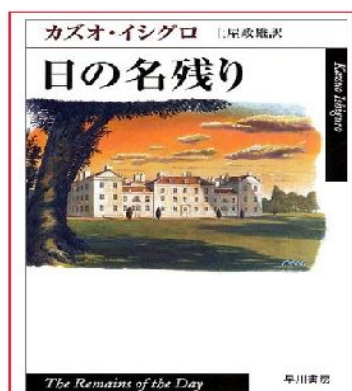
この試みはクラス全体と複数のスポンサーを対応させる。学校では授業の一環としてスポンサーへの手紙や絵を書いたりする時間をとり、クラスで話し合ったり、助け合ったりして、クラスの皆がとても盛り上がり今までにない良さが得られたと言う報告である。

2009年には本格的な活動に入り学校にトイレや水道もついたところがある。このプロジェクトでは子ども会をつくり子どもの意見を聞いたり、子どもに子どもの権利を教え、子どもらしい生活とイベントへの参加の喜びを知らせる活動や、先生にコミュニティボランティアに関するトレーニング等を始めているとのことである。

スクール・スポンサーシップは現在ベトナムだけの試みではあるが良い効果が現れているように感じた。もっと幅広く行われていくことを望み応援をしたいと思う。

2010年2月28日映画鑑賞会報告

報告者：高橋 照夫



映画鑑賞会は、講師に横浜映画研究会会員の西浦久晏氏(同窓会会員)による講演と氏の選定による映画鑑賞を行った。

講演の演題は『映像文化（映画）と文字文化（文学）』で、東西古今の文学作品が映画でどのように表現されているかについて、映画作品の中から事例を上げて、映画的な技法（音響効果、セット、カメラワークなど）についての興味深い内容であった。

映画鑑賞は氏の選定によるイギリス映画『日の名残り』。この作品は、英国の名門家に一生をささげた老執事の半生をを回想する人間ドラマであるが、主人公アンソニー・ホプキンスの繊細な演技、時代背景の丁寧な説明、舞台となる貴族屋敷の生活の様子など見所が満載で、あまり知られていないがかくれた名作で、参加した会員からは大変よい作品という感想が寄せられた。